

印旛沼流域水循環健全化会議
第34回健全化委員会
議事要旨

<会議概要>

日時：2024（R6）年3月14日（木） 14：00～16：00
場所：八千代エンジニアリング会議室、WEB 会議併用
出席者：次項の通り

<協議内容>

■ 議事

- (1) 開会挨拶
- (2) 第3期行動計画の取組の進捗状況について
- (3) 各部会における取組と今後の予定について
- (4) 報告事項
 - ① 虫明顧問の叙勲について
 - ② 印旛沼流域水循環健全化会議 規約の改正について
 - ③ ニューヨークにおける取組について
 - ④ 「千葉うみさとライン」プロジェクトについて
 - ⑤ GEWEX-OSC 札幌大会について
 - ⑥ 国際会議における印旛沼流域の取組紹介
 - ⑦ 短期海外研修の報告
- (5) その他

■ 配布資料

資料1：次第

資料2：出席者名簿

資料3：第3期行動計画の取組の進捗状況について

資料4：各部会における取組と今後の予定について

資料5：印旛沼流域水循環健全化会議 規約（案）

資料6：「千葉うみさとライン」報道発表資料

資料7：GEWEX-OSC 札幌大会について

資料8：気候変動・生物多様性・SDGs に相乗効果（シナジー）をもたらす日本の取組事例

資料9：ご意見記入シート

令和5年度印旛沼流域水循環健全化会議 第34回委員会 出席者名簿 (1/3)

	所 属 ・ 職 名	氏 名	出 欠	
委員長	中央大学 名誉教授	山田 正	出席	
顧問	東京大学 名誉教授	虫明 功臣	WEB	
委員 (学識者)	岩手大学 教授	飯田 俊彰	WEB	
	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官	川崎 将生	WEB	
	千葉大学 名誉教授	近藤 昭彦	WEB	
	元 独立行政法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究 センター長	高村 典子	WEB	
	国立研究開発法人 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長	西廣 淳	WEB	
	東京理科大学 教授	二瓶 泰雄	WEB	
	水の回廊社会実験 代表	古川 巖水	WEB	
	千葉黎明高等学校 非常勤講師	古嶋 美文	WEB	
	公益財団法人 印旛沼環境基金 主任研究員	日浦 博昭	WEB	
委員 (水利用者)	印旛沼土地改良区 理事長	長谷川 邦彦	(欠席)	
	印旛沼漁業協同組合長	小川 佳男	(欠席)	
委員 (市民団体)	特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会 理事	高橋 修	WEB	
	特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば 代表理事	桑波田 和子	WEB	
	印旛沼探検隊 代表	新谷 義男	WEB	
行政委員	国土交通省 関東地方整備局利根川下流河川事務 所長 副所長	小渕 康正 櫻井 真一	WEB	
	農林水産省 関東農政局 印旛沼二期農業水利事業所 調査設計課長	谷 悠一郎	WEB(代理)	
	独立行政法人水資源機構 千葉用水総合管理所 管理課長	岡安 幹夫	WEB(代理)	
	千葉市長	環境局環境保全部環境保全課 技師	吉田 伸之介	WEB(代理)
		都市局都市政策課 主査	吉田 裕志	WEB(代理)
	船橋市長	建設局下水道部下水道河川計画課 課長	中村 浩一 岩城 俊介	WEB(代理)
	成田市長	土木部土木課 技師	渡辺 翔	WEB(代理)
		環境部環境計画課 主査	高橋 あゆみ	WEB(代理)
	佐倉市長	土木部治水課 副主幹	櫻井 慎也	WEB(代理)
	八千代市長	経済環境部環境保全課 主査	原谷 豪	WEB(代理)
		企画部企画経営課 主任主事	石原 裕文	WEB(代理)
	鎌ヶ谷市長	都市建設部 次長	横山 吉治	WEB(代理)
	四街道市長			(欠席)
八街市長	経済環境部環境課 主査補	石川 綾	WEB(代理)	

令和5年度印旛沼流域水循環健全化会議 第34回委員会 出席者名簿(2/3)

	所 属 ・ 職 名		氏 名	出 欠
行政委員	印西市長	都市建設部土木管理課 主任主事	糸賀 悠	WEB(代理)
		環境経済部環境保全課 主事	及川 雄太	WEB(代理)
	白井市長			(欠席)
	富里市長	経済環境部環境課 主査補	近藤 充	WEB(代理)
	酒々井町長	まちづくり課 主任技師	小松 大起	WEB(代理)
	栄町長	都市建設課 課長補佐	宮本 純一	WEB(代理)
		県 総合企画部 水政課 副課長 副主査	長嶋 正明 落合 駿	WEB(代理)
		県 環境生活部 水質保全課 課長	渡邊 岳夫	WEB(代理)
		県 農林水産部 次長	小野 勉	WEB
		県 農林水産部 水産局長		(欠席)
		県 県土整備部 次長	田村 英記	WEB
		県 企業局 水道部 浄水課 副課長	木下 英二	WEB(代理)
		県 企業局 工業用水部 施設整備課 主査	田中 美奈子	WEB(代理)
		県 教育庁 教育振興部 次長		(欠席)
オブザーバー		国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 技術調整官	舛田 直樹	WEB(代理)
		国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課長 課長 計画係長	斎藤 充則 生山 洋平	WEB
		国土交通省 関東地方整備局 河川部 地域河川課長		(欠席)
		県 県土整備部 河川整備課長 課長	古谷野 克己	WEB
		県 千葉土木事務所長 副主査	池田 達也	WEB(代理)
		県 葛南土木事務所長		(欠席)
		県 東葛飾土木事務所 調整課長	芦村 健爾	WEB(代理)
		県 印旛土木事務所 河川改良課長	中村 大介	WEB(代理)
		県 成田土木事務所長	古橋 保孝	WEB
		県 北千葉道路建設事務所 技師	上原 康平	WEB(代理)
その他参加者		一般社団法人JC総研 協同組合研究部 客員研究員	仲野 隆三	WEB
		県立中央博物館 庶務部 教育普及課 上席研究員	林 紀男	WEB
		株式会社ジー・ピー・アイ 代表取締役	岩崎 肇	WEB

令和5年度印旛沼流域水循環健全化会議 第34回委員会 出席者名簿(3/3)

	所属・職名	氏名	出欠
事務局	県 環境生活部 水質保全課 副課長 班長 主事	西田 寛子	WEB
		渡邊 勝	
		田口 雄己	
	県 県土整備部 河川環境課 課長 副課長 班長 副主幹 副主査 副主査 副主査	前田 尚志	WEB
		銅 達夫	WEB
		御園生 一彦	出席
		原 紳一郎	出席
		吉田 操	出席
		青木 佳祐	WEB
		小泉 礎	WEB
	八千代エンジニアリング株式会社	山内 可奈子	出席
		鈴木 広美	出席
		小原 陸丸	出席
		松浦 崇裕	WEB
		五十嵐 公太	WEB
武知 弘奈		WEB	
米澤 創吉		出席	
株式会社シビル・ワークス	小林 祐子	出席	
	佐竹 康孝	出席	

■開催状況

オンライン会議の様子



レコーディング

 <p>八千代エンジニアリング株式会社 山内</p>	 <p>Musiake Katumi</p>	 <p>八千代エンジニアリング 小原陸丸</p>
<p>千葉県河川環境課</p>	<p>千葉県水質保全課 田口</p>	<p>千葉県水政課 長嶋</p>
<p>千葉県水政課 落合</p>		<p>印西市</p>
	<p>千葉県立中央博物館</p>	<p>千葉県水質保全課西田</p>
<p>印旛沼環境基金 日浦</p>		<p>千葉県河川環境課 企画班 吉田</p>

■議事内容

(1)開会挨拶

千葉県県土整備部田村次長、山田委員長より開会挨拶を賜った。

(2)第3期行動計画の取組の進捗状況について

河川環境課から、資料3について説明を行った。

●質疑応答・コメント

・ 【西廣委員】

浸透施設や透水性舗装の数が目標を上回ったことはポジティブと捉えてよいのか。

元々アスファルト舗装であれば良いが、森や畑が開発されて施設ができた場合は、逆に浸透機能が低下するのではないか。

⇒ 【事務局/河川環境課】

印旛沼流域北西部は特に開発が進んでおり、元は森林等であった場所が施設に変えられていることから、ご指摘のとおり、全体的な浸透機能は低下している。

⇒ 【西廣委員】

評価にあたっては施設の数のデータも必要だが、元々どのような環境であったかということも考慮に入れる必要がある。今後、このような評価の仕方についても相談に乗ってきたい。

・ 【二瓶流域治水部会長】

2020年に加賀清水の湧水の枯渇日数が急増している原因は何か。

⇒ 【事務局/河川環境課】

少雨の影響があったと思われるが、詳しい原因は確認できない。

⇒ 【二瓶流域治水部会長】

浸透枡の浸透機能の低下と冬の少雨のどちらが原因かは分からないが、加賀清水の浸透枡は設置から20年近く経っており、目詰まり等が生じる可能性がある。浸透枡の設置数だけでなくメンテナンス等についても考えなくてはならない。

⇒ 【事務局/河川環境課】

来年度以降、二瓶先生のご指導もいただきながら、浸透枡のメンテナンス等についても検討していきたい。

・ 【山田委員長】

浸透型の雨水枡について、目詰まり解消の技術の開発など、学術的に新しい動きはあるか。

⇒ 【二瓶流域治水部会長】

最新の論文等の情報や技術の進展についてはあまり耳にしていない。

⇒ 【山田委員長】

一般的な雨水枡は蚊の発生源になってしまうため、対策のために厚生労働省から研究費も出ている。現在は国土交通省の基準に則った雨水枡であるが、目詰まりの件も含めて、新たに雨水枡の設計を見直さなければいけない時期にあると感じる。

・ **【近藤水辺活用・連携部会長】**

浸透枿は、地下水涵養に対する機能としてはポジティブである。しかし、これを評価するとなると、地下水流動域が理解できていないため、流動域全体に対する評価は困難である。それ以外に、時代背景を踏まえると、高度経済成長期に東京大都市圏から人が集まってきた中、浸透量が復活したということの評価、人々の意識を変えたということの評価についてはポジティブに捉えて良いのではないか。このような数値化しにくい部分の評価も重視できると良い。

・ **【新谷委員】**

いんばぬま情報広場の HP に記載の WEB アクセス数（13,024）はいつからカウントされたものか。

⇒ **【事務局/河川環境課】**

令和4年1月頃にいんばぬま情報広場をスマートフォンでも見られるように改良した時にリセットしているが、明確なところはわからないため、確認する。

⇒ **【近藤水辺活用・連携部会長】**

健全化 HP による広報は重要である。定期的に更新し、期待を持ってもらうことが大切である。更新の頻度を高めていきたいので、部会の取組やイベント等の情報があったら事務局に送ってほしい。

・ **【飯田委員】**

水田貯留の取組の実績は面積にするとどれくらいか。

⇒ **【事務局/河川環境課】**

約30haである。

⇒ **【飯田委員】**

目標に「実施数」の増加とあるが、数より面積の方が重要であると考え。今後は合計面積を把握すると良い。

⇒ **【事務局/河川環境課】**

ご指摘を踏まえ、今後は件数と共に面積も報告する。

(3)各部会における取組と今後の予定について

河川環境課から、資料4について説明を行った。

●質疑応答・コメント

・ **【二瓶流域治水部会長】**

今年度は現地での見学会や意見交換会を重視した。現地を見ながらかなり活発な意見交換ができたと思う。来年も現地を見ながら議論を進め、活動の展開につなげていきたい。

・ **【近藤水辺活用・連携部会長】**

追加事項は特にない。限られた人員の中で良い活動ができたと感じている。

- ・ **【西廣委員】**
追加事項は特にない。今後も健全化会議を通して情報共有や議論をしていきたい。
- ・ **【川崎水環境部会長】**
追加事項は特にないが、これまで中長期的な水質改善対策の検討を進めてきたが、効果的な水質対策を見出すのは難しいと感じている。今後は今までの制約を少し外した検討が必要なのではないか。そのためには流域治水部会等、他の部会との連携が必要となるため、今後ご協力をお願いしたい。
- ・ **【山田委員長】**
近所の谷津では、これまでのごみ拾いで集めたごみを四街道市が回収してくれていたが、財政の逼迫により回収できなくなってしまった。それに伴い谷津周辺がゴミだらけになってしまう懸念がある。流域内の他の市も同じような状況になってしまうのではないかと危惧している。
- ・ **【山田委員長】**
「TABIRIN」というサイクリングコースを紹介するフリーソフトに土木学会選奨土木遺産を掲載することになった。しかし、紹介されているサイクリングコースは関西方面や東京都や埼玉県内が多く、千葉県は少ない。各市町で推奨するサイクリングコースや土木遺産が見える場所など、是非積極的に載せてほしい。これを機に印旛沼周辺を楽しく散策できる仕組みができれば良い。

(4) 報告事項

① 虫明顧問の叙勲について

河川環境課から、虫明顧問の叙勲について説明を行い、虫明顧問からご挨拶をいただいた。また、県土整備部からお祝いの言葉をいただいた。

● 質疑応答・コメント

- ・ 質疑応答・コメントは特になかった。

② 印旛沼流域水循環健全化会議 規約の改正について

河川整備課から、資料5について説明を行い、退任される仲野委員からご挨拶をいただいた。

● 質疑応答・コメント

- ・ 質疑応答・コメントは特になかった。

③ ニューヨークにおける取組について

山田委員長から、ニューヨーク市の視察会について説明を行っていただいた。

●質疑応答・コメント

・ 【二瓶流域治水部会長】

ニューヨークの堤防のない開放的なレストランについて、洪水や高潮への対策の仕方は地先ごとに決めているのか、それとも地域やエリア全体で一律であるのか。

⇒ 【山田委員長】

ビルのオーナーが、自分たちの身は自分たちで守るからと、堤防を作らせないようにした。シカゴ等にも同じような構造があり、自分のビルを堤防に使うように言う人もいる。日本では全て一律になってしまうので少しつまらなさを感じる。

④「千葉うみさとライン」プロジェクトについて

河川環境課から、資料6について説明を行った。

●質疑応答・コメント

- ・ 質疑応答・コメントは特になかった。

⑤GEWEX-OSC 札幌大会について

河川環境課から、資料7について説明を行った。

●質疑応答・コメント

・ 【山田委員長】

今回の GEWEX は発表応募者だけで 850 人、一般参加者を含めると 1000 人規模となる。岸田総理や国土交通省政務官、ノーベル賞受賞者の真鍋叔郎先生もビデオメッセージで出演される予定である。皆さんもぜひ参加してほしい。

・ 【西廣委員】

GEWEX 中の 7 月 10 日に環境省の特別セッションがあるが、気候変動適応というテーマで半分印旛沼の話をするので、是非 10 日を含める形で参加をしてほしい。

⑥国際会議における印旛沼流域の取組紹介

河川環境課から、資料8について説明を行った。

●質疑応答・コメント

- ・ 質疑応答・コメントは特になかった。

⑦短期海外研修の報告

河川環境課から、シンガポールでの研修の報告を行った。

●質疑応答・コメント

・ 【西廣委員】

シンガポールでのグリーンインフラの取組は、公有地だけでなく私有地や農地でもされ

ているか。日本の谷津のグリーンインフラは民有地なので、今後展開していくためには地権者の方に経済的なメリットがあることが大切であるが、シンガポールはどうであるか知りたい。

⇒【事務局/河川環境課】

全てが国有地である。シンガポールでは全ての土地を国が所有しており、〇年契約という形で国民に貸している。グリーンインフラに関わらず、全ての土地は国が貸す仕組みとなっている。

⇒【西廣委員】

日本では別の方法を考えなければならない。

⇒【山田委員長】

ニューヨークには、マンションの目の前に壁を立ててしまう事例がある。景観の面でマンションの1階の人は反対だが、上階の人は賛成をしているという不思議な状態となる。また、ニューヨーク市では市営アパートの大改造を行っており、様々な収入層の人に入居させることでスラム化を防ぐ工夫をしている。

・【飯田委員】

短期海外研修は今後も継続されるか。

⇒【事務局/河川環境課】

制度としては毎年あるが、年によって選定される部局が異なるため、また行けるとは限らない。運が良ければまた選定される可能性はある。

⇒【飯田委員】

シンガポールには農地がほとんどないが、韓国、台湾、中国では水環境と農業生産の両立を行っている事例があるので、それらの国を研修先を含めると良い。

・【山田委員長】

他の委員の方々も、海外に行った際には海外の事例をぜひ紹介してほしい。

(5)その他

水資源機構 岡安管理課長から、大和田排水機場の一般開放について説明いただいた。

●質疑応答・コメント

・ 質疑応答・コメントは特になかった。